

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

- 1 履修単位数 3単位
- 2 実施日時 令和 7年 月 日（ ） 第 時限
- 3 学級 年 組（ 名）
- 4 使用教科書 詳説世界史（山川出版社）
- 5 単元名 ドイツとヨーロッパ世界の拡大、そして徳島

6 単元（題材）設定の理由

〈生徒観〉本校の○学年においては○名の生徒が、世界史探究を選択している。○年○組は文系クラスで、国際系や教育系の進路を志す生徒が多い。クラブ活動の一環で海外遠征を経験している生徒もいて、大変意欲的に授業に取り組んでいる。

本校は○月○日から10日間、姉妹校提携をしているドイツのニーダーザクセン州のリーゼ＝マイトナーギムナジウムから留学生を受け入れている。この授業でも2人の生徒がホストファミリーになっている。この機会を活用して、ローマ帝国の歴史や中世ヨーロッパ世界の拡大のなかで、ドイツの成り立ちをともに学ぶことにしている。また、徳島とドイツの関わりを考える機会にも活用している。

本時は、10日間の集大成として位置付け、知識及び理解を習得するとともに、徳島から世界を思考する視野の醸成につなげたいと考え、単元設定をした。

〈教材観〉ドイツの成り立ちというテーマ史のなかで、最初に重要なのがローマとゲルマン人との関わりである。ゲルマン人の帝国内での役割や、活動範囲の拡大について、地図や史料を用いながら知識を習得し、後のドイツの成立の基礎が築かれたことについて考える。

次に西ローマ帝国崩壊後に成立したフランク王国について、ローマカトリック教会とつながりを持ちながら、西ヨーロッパ世界を統一したことについて学ぶ。カール大帝の死後、分裂したなかの東フランクがドイツの原型となったことを理解する。その後も、オットー1世がローマ教会と関係を強化するなかで神聖ローマ帝国を築いたことについて思考する。

続いて、中世ヨーロッパ世界の基礎を形成する封建社会で領邦が自立したことについて学ぶ。ドイツで施行されている連邦制の基礎となっていることについて理解する。また11世紀以降の西ヨーロッパ世界の拡大のなかで、どのようにドイツ北西部のニーダーザクセン州の基礎は形成されたかを学ぶ。後のヨーロッパ世界において、中心的勢力の一つとして大きな役割を担うドイツの成り立ちを、ドイツからの留学生を受け入れる本校の環境を活かして、主体的に学習する。

以上の3点を学習しながら、徳島とドイツがどのように関係を持ち、現在にいたっているのかを考える。

〈指導観〉10日間の留学生受け入れ期間を活用して、ドイツの歴史を学ぶことで、本校生と留学生がともに学ぶ機会を創出して、自発的に協働しながら歴史を思考する態度を養いたい。また、徳島とドイツとのつながりを考えることで、自分たちが身を置く社会から世界の歴史を考える思考力や視野を養いたい。

7 単元（題材）の目標

- (1) ドイツのヨーロッパ世界における位置づけが形成される過程や、宗教が受容される背景について、ローマや中世ヨーロッパの歴史的展開を学ぶなかで理解することができる。
- (2) 中世に地方分権的な領邦制度が構築され、現代の連邦制につながっていることや、ドイツの拡大について、中世ヨーロッパ社会の展開の内容とつなげて考えることができる。
- (3) 徳島とドイツの歴史について、事前課題に取り組むことで主体的に探究し、グループワークや発表を通じて考えを深めることができる。

単元の基軸となる問い

ドイツやニーダーザクセン州がどのように形成されたか。また、徳島とドイツはどのように関わってきたか。

8 単元（題材）の評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
ローマが発展するなかで、ゲルマン人がどのように台頭し、後の西ヨーロッパ世界を形成する基礎を作ったか理解している。中世ヨーロッパ世界の発展のなかで、ドイツの基礎が形成されたことを理解している。	地図や文献史料を用いて、ゲルマン人のローマにおける台頭や、中世ヨーロッパのドイツの基礎の形成について思考する。	徳島とドイツの関連性について、自ら調査した内容をまとめることを通じて、徳島から世界を考える歴史観を形成する態度を身に付ける。

9 指導と評価の計画 単元名「ドイツとヨーロッパ世界の拡大、そして徳島」 全4時間

- 第1時 ローマとゲルマン人・・・ローマの拡大のなかでゲルマン人はどのように台頭してきたか理解する。【○知 ●思】
- 第2時 中世ヨーロッパとドイツ・・・フランク王国やその分裂後の東フランク王国、神聖ローマ帝国が、なぜどのように発展し、ドイツの基礎が形成されたか思考する。【○知 ●思】
- 第3時 ドイツの拡大とニーダーザクセン・・・11世紀以降ヨーロッパ世界が拡大するなかで、ニーダーザクセン州の基礎はどのように形成されたか、史料を用いながら思考する。【○知 ●態】
- 第4時 ドイツの基礎の形成とニーダーザクセン州、そして徳島・・・前時までの3時間の内容について理解を深める。また徳島とドイツの関連について自ら学習した内容や、前時までの学習で身に付いた歴史観を表現する。【○態】（本時4/4）

単元の指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

時程	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1時	【単元の基軸となる問い】 ドイツやニーダーザクセン州がどのように形成されたか。また、徳島とドイツはどのように関わってきたか。				
	<p>【本時の問い】ローマ拡大のなかで、ゲルマン人はどのように台頭してきたか。</p> <p>・帝政前期と後期に台頭した背景について理解する。 ・なぜゲルマン人が台頭したか、考える。</p>	○	●		<p>(評価資料)教科書読解、発表</p> <p>○教科書や資料集の史料から、台頭した背景を読み取っている。 ●教科書の内容から、ゲルマン人が帝国内で果たした役割から台頭背景を予想している。</p>
第2時	【本時の問い】フランク王国、東フランク王国、神聖ローマ帝国がどのように発展してドイツの基礎を形成したか。				
	<p>・フランク王国や神聖ローマ帝国がどのように発展したか理解する。 ・なぜドイツの基礎を作った国家はローマ教会とつながったか考える。</p>	○	●		<p>(評価資料)教科書読解、発表</p> <p>○ローマカトリック教会との関連性について教科書や資料集から読み取っている。 ●ローマ教会やゲルマン人国家の置かれた状況について、史料をもとに考察している。</p>

第3時	<p>【本時の問い】 11世紀のヨーロッパはどのように拡大したか。ドイツ、ニーダーザクセン州はどのように拡大・形成されていったか。</p>		<p>(評価資料)教科書読解、グループワーク</p> <p>○地図資料から諸方面で拡大が開始したことについて読み取っている。</p> <p>●グループワークで自らの意見を発表して、協働して考察を深めている。</p>
第4時	<p>【本時の問い】 ドイツやニーダーザクセン州はどのように成立・発展したか。徳島とドイツはどのような関係を築いたか。</p>		<p>(評価資料)発表、グループワーク、プレゼンテーション</p> <p>○プレゼンテーションソフトを用いて、形成された捉え方を明確にし、グループ全体で考察を深める態度が見られる。</p>

10 本時の指導目標

前時までの3時間の内容について、要点ノートや映像資料を通じてさらに理解を深める。また徳島とドイツの関連について自ら学習した内容や、前時までの学習で身に付いた歴史観をグループワークで共有し、主体的に考察を深める態度を養う。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 15分	<p>【単元の基軸となる問い】 ドイツやニーダーザクセン州がどのように形成されたか。また徳島とドイツはどのように関わってきたか。</p>			
	<p>【本時の問い】 ドイツやニーダーザクセン州はどのように成立・発展したか。徳島とドイツはどのような関係を築いたか。</p>			
	<p>・本時の問い、目標、流れを確認する。</p> <p>・ローマから中世ヨーロッパの間、ゲルマン人やドイツがどのように台頭</p>	<p>・前時までの3時間の集大成であることを認識する。</p> <p>・資料や教科書の振り返りを通じて、各時代に応じて台頭した内容や、そ</p>		

	し、現在の基礎を形成したか、振り返る。 ・自分たちが主体的に学習した徳島とドイツの関係について、共有する。	の背景を理解する。 ・第1次世界大戦や姉妹都市の提携に関する内容を共有し、理解を深める。		
展開 30分	・前時までの内容や、徳島とドイツの関係について共有した内容を通して、深まった考えや捉え方について、グループワークで共有し、まとめる。 ・グループワークでまとめた考えや捉え方をプレゼンテーションする。	・グループワークで意見を共有し、知識理解を深める。 ・グループの代表が発表し、意見を聞くことで考察を深める。	・グループワークの中で、意見の発表・共有を通じて、グループ全体で考察を深める態度が見られる。【態度】	・グループワークにおける発表
まとめ 5分	・本時の感想をノートに簡潔にまとめ、発表する。	・前時までの内容と、グループワークやプレゼンテーションで知り得た内容について、振り返る。		

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【態度】

A	十分満足できる	ドイツの成立過程に関する発問に十分に答えることができている。その上で、グループワークで積極的に自らの意見を述べるができている。
B	おおむね満足できる	グループワークにおいて深まった自らの考え方を、さらに深めようとする態度が見られる。
C	Bを満たさない生徒への具体的な手立て	グループワークで十分に発表できなかった生徒については、後日個別に意見を聞いて、評価の対象に加える。